

MEETメディア学

MEETメディア学では、「普段とは違う視点をもってメディアをみる」というテーマをもって、2、3人のグループに分かれ、研究を行いました。それぞれのグループが、どのような研究を行ったかということ、感想を紹介します。

「作者の意図と読者の受け取り方」グループ

作者のこめた意図を、読者はどう受け取るか、ということを探りました。漫画化された小説と漫画を用意し、小説だけを読んで自分達のみで漫画化する、という方法で調査を進めました。小説と漫画にはそれぞれの効果的な表現があるということがわかりました。今までは違うものを見方をしたので、普段は気がつかない事にもたくさん気がつけてよかったです。



〈自分たちで考えた物〉



「COMING」グループ

インターネット・地上波放送で放映されているCMに注目して、企業名、曲の雰囲気、製品名などを集計し、分類及び現代に至るまでのCMの傾向などを調査し、普段CMを何気なく見ている人たちに少しでも興味を持ってもらうことを目標とした。結果、物事に対する洞察力が深まり、視野を広く持つ(様々な角度から見る)事によって、自分の世界観がよりいっそう進歩したと感じさせられる学習だった。

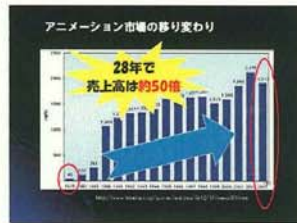
しかし、最終的な結果が計画倒れになってしまい、思うような学習成果をあげる事が出来なかったのが残念。しかし、収穫はたくさんあった。

「アニメ主題歌の移り変わり」グループ

アニメ主題歌の移り変わりについて調べました。様々なアニメの主題歌をみて、歌詞の表示があるか、歌詞がひらがな表記か、漢字表記かを調べ、まとめました。

古いものからひらがな表記→漢字表記→歌詞表示無しとなり、アニメというものの対象年齢があがっていったことがわかりました。

このことから近年のアニメの対象は、子供ではなく、お金を持っている青年や大人であり、子供の方が様々な方面からもうけが期待できると考えました。さらに現在のアニメから分かることとして、明らかに対象年齢が低いものを除いて、ほとんどがアーティストの曲を起用しており、主題歌とアニメの関係性は次第に薄くなっていくことがわかりました。現在の主題歌はアニメの説明というニュアンスから、アーティストの曲の宣伝のために存在していることもわかりました。さらに主題歌からみると、アニメは「子供が楽しむ物」から、「一つの確立した商品」になっている傾向が見受けられました。



今回のMEETで一つの物をさまざまな角度から見ることができたと思います。主題歌という小さな入り口からでも、アニメ全体の移り変わりを見通すことができました。このような大きな視野をもち、メディアだけでなく様々なことに接していきたいです。

「映画の山場」グループ

僕たちが、普段何気なく鑑賞している「映画」。そんな「映画」にはいくつかの秘密が隠されている。そんな秘密の一つに、「映画の山場は15分おきに存在する」というものがあり、僕たちはそれについて調べた。

調査方法は、有名な映画を何本か鑑賞し、15分ごとに山場があるかを○、×で区別した。その結果、○の確率が多いことがわかった。まとめとして、映画監督は、山場を一定の割合で映画に加えることで、見ている人に興味をわかせる工夫を施しているということがわかった。調べてみて、改めて思ったことは、映画というものは、奥が深く、普段何気なく見ている映画にも面白いところがあるのだと実感できた。

そして何本もの映画をストップウォッチを片手にして見る、という作業は思ったよりもなかつたので、経験できてよかったです。

「映画の主要登場人物」グループ

〈テーマ〉

・映画の主要人物が出てくるまでの時間はどのくらいか、を調べる。
・映画の冒頭から読み取れることは何かを調べる。

〈調べ方〉

DVDを見て、調べたい人物が初めて出てきた時間の時間を記録する。それを「シリーズもの」と「単独作品」に分ける。

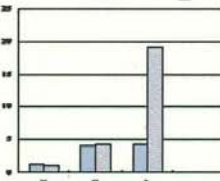
〈分かったこと〉

・主人公やほかの主要人物は、早い段階で映画に登場してくる。特に主人公は3分前で出てくる。
・冒頭のシーンにはその映画がどんな話なのか分かるものが出てくる。
(例)「バック・トゥ・ザ・フューチャー」
↓ 時計がたたく音が出てくる。

〈感想〉

映画に限らず、違う視点から見ると力をつけることができた。

調べた結果②～シリーズもの～



- バックトゥーザフューチャー
- 主要人物(ドクとマーティ)が出てくる時間
⇒シリーズを重ねるほど早くなっている。
 - 「映画の概要を視聴者が理解しているから」
 - Ⅰの最初はたくさんの時計から始まった。
 - 時間が重要な映画
 - ⅡとⅢではドクとマーティが出てくる時間がほぼ同じ
 - 二人は同等

「アニメとマンガの違い」グループ



僕たちは、アニメとマンガの違いについて調べました。「家庭教師ヒットマンリポーン」を対象にしました。このマンガにはとても暴力的な部分が多いです。そのマンガがアニメ化されたら、小さい子供も見る可能性もあるのではないかと重い、マンガとアニメの違いを調べました。

僕たちはマンガと、アニメのDVDを要して同じストーリーをそれぞれ見比べてメモして、その後、考察にうつる、という感じで調べました。そして、その結果、アニメには、子供に悪影響を与えないようにするために、カットされている部分がある、ということがわかりました。やはり子供がアニメをみる時間帯で放送されているので、そうしてあるのだと思います。あと、時間の関係などでマンガにはないものもありました。

このMEETの時間から、マンガやアニメ、映画など他のグループから色々知らなかったことをいっぱい習いました。また、マンガやアニメや映画を見るとき、新しい発見が増えたと思います。この授業があって、本当によかったです。

「メディアミックス」グループ

〈内容〉

「コードギアス」という一つの作品において、アニメ・マンガ・小説でどのような違いがあるか、また、なぜそのような違いが出るのか調べた。

〈方法〉

アニメとマンガでストーリー展開の違い、登場人物の違いを調べる。アニメ・マンガ・小説で、表現の違いを調べる。

〈わかったこと〉

ストーリー展開や登場人物の違いは、対象者の違いから起こったことがわかった。たとえば、少女向けのマンガにはメカや戦闘シーンが少ない。また、表現については、アニメでは人物の表情だけで表すところを、小説では言葉だけで、マンガでは表情と言葉の両方で表す、という違いがあった。

〈感想〉

おなじ作品でも、そのメディアの特徴を生かして、見る側につけるようにしてあることがわかった。作品を見てもらうために、そういった戦略が必要だと知って、アニメやマンガを見るときに、その作品の戦略を感じながら読むのも良いのではないかと考えた。